

2020年大統領選挙： アメリカ政治の変化と継続

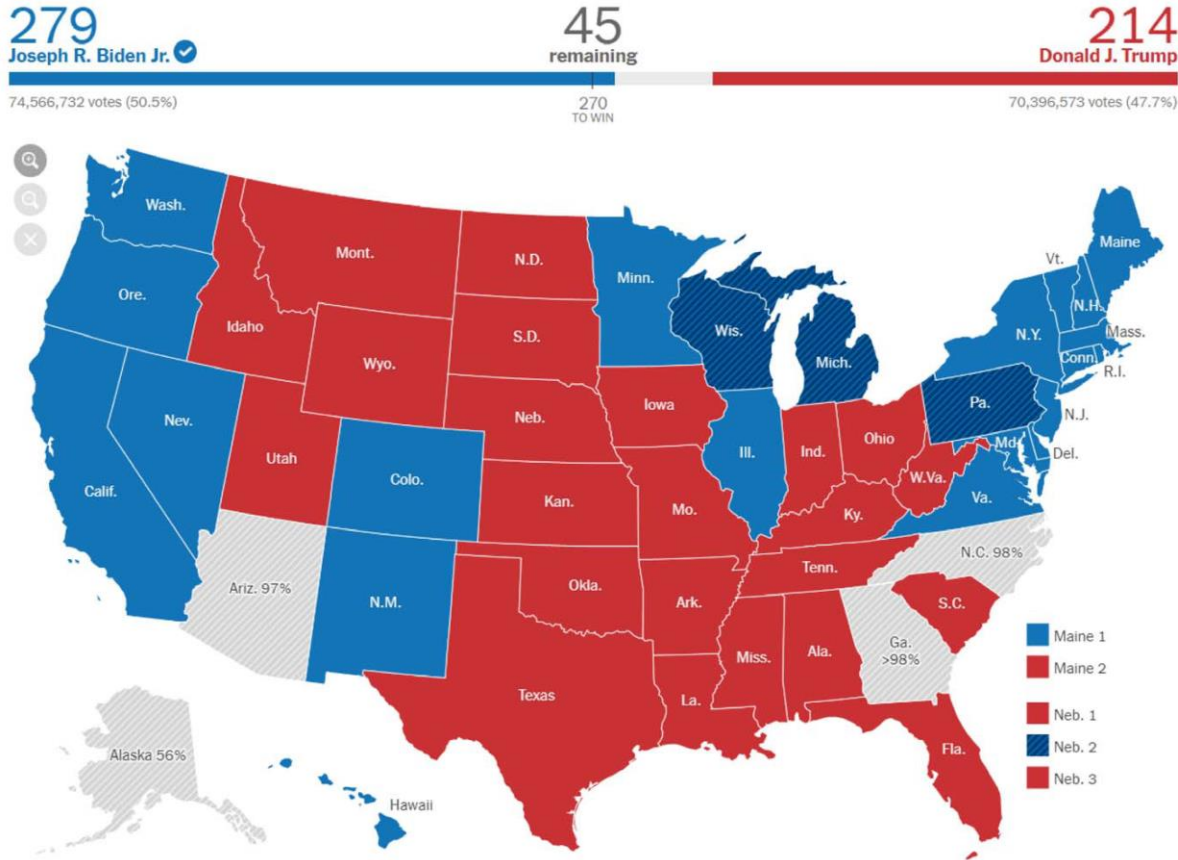
東京財団政策研究所

「2020年アメリカ大統領選挙プロジェクト」

松井孝太（杏林大学）

2020年11月9日

選挙結果（11月9日現在）

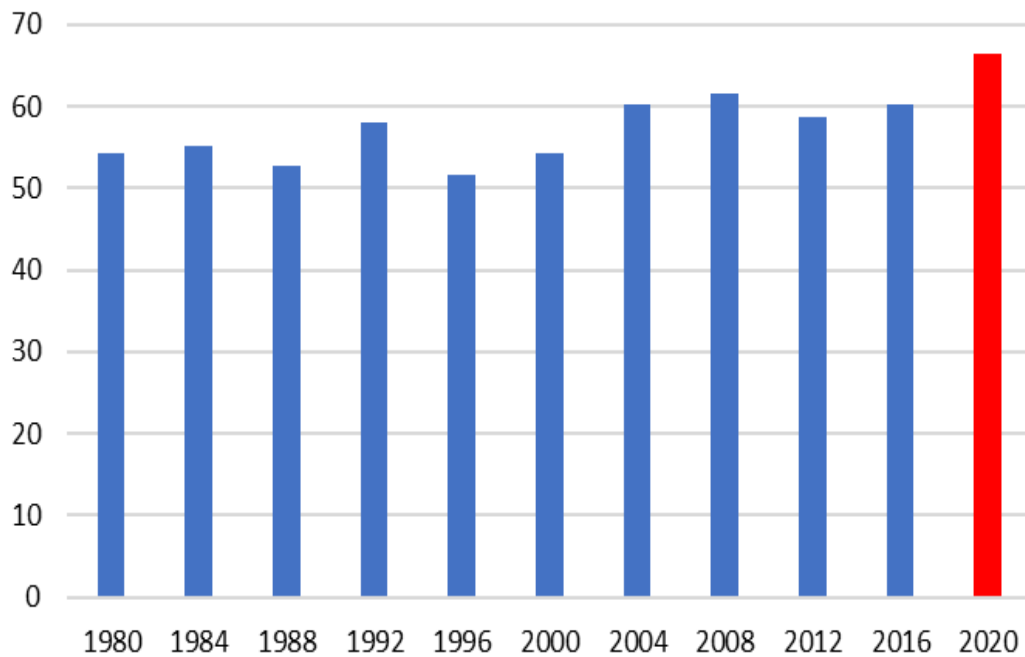


出所：New York Times

- バイデンが選挙人の過半数（270人）を上回り勝利
- 郵便投票は民主党支持者に偏る傾向 → 開票が進むにつれてバイデンが票を伸ばす展開に
- 2016年トランプ勝利の鍵となったラストベルト州（ウィスコンシン、ミシガン、ペンシルベニア）を民主党が奪還
- 近年共和党優位が続いてきたジョージア、アリゾナでも優勢

歴史的な高投票率

大統領選挙投票率



※2020年は推定値（11月9日現在）

出典：Washington Post/ Edison Research

- 1900年大統領選挙以来の高投票率
 - 投票率：60.1% (2016年) → 66.4% (2020年)
 - 特に若年層（18-29歳）で大きく上昇：
42～44% (2016年) → 53～56% (2020年)
- ※2020年はいずれも推計値（11月9日現在）
- 期日前投票（対面・郵便投票）：
4700万票(2016年) → 1億190万票(2020年)

出口調査結果

出典：2016年と2020年ともにEdison Research for the National Election Poolの調査による

- 投票行動の全体的傾向は変わらず
- 女性と若年層の民主党支持がより明確に
- バイデンはクリントンよりも男性票で健闘

| 2016年 | トランプ | クリントン |
|-------|------|-------|
| 男性 | 53 | 41 |
| 女性 | 42 | 54 |

| 2020年 | トランプ | バイデン |
|-------|------|------|
| 男性 | 49 | 48 |
| 女性 | 43 | 56 |

| | | |
|--------|----|----|
| 白人 | 58 | 37 |
| 黒人 | 8 | 88 |
| ヒスパニック | 29 | 65 |
| アジア系 | 29 | 65 |



| | | |
|--------|----|----|
| 白人 | 57 | 42 |
| 黒人 | 12 | 87 |
| ヒスパニック | 32 | 66 |
| アジア系 | 31 | 63 |

| | | |
|----------|----|----|
| 白人・大卒 | 49 | 45 |
| 白人・大卒未満 | 67 | 28 |
| 非白人・大卒 | 23 | 71 |
| 非白人・大卒未満 | 20 | 75 |

| | | |
|----------|----|----|
| 白人・大卒 | 49 | 49 |
| 白人・大卒未満 | 64 | 35 |
| 非白人・大卒 | 27 | 71 |
| 非白人・大卒未満 | 26 | 72 |

| | | |
|--------|----|----|
| 18-29歳 | 37 | 55 |
| 30-44歳 | 42 | 50 |
| 45-64歳 | 53 | 44 |
| 65歳以上 | 53 | 45 |

| | | |
|--------|----|----|
| 18-29歳 | 35 | 62 |
| 30-44歳 | 45 | 52 |
| 45-64歳 | 49 | 50 |
| 65歳以上 | 51 | 48 |

出口調査結果

- 投票先の決定において最も重要な争点

| | トランプ | バイデン |
|--------|------|------|
| 人種間不平等 | 8 | 91 |
| コロナ禍 | 14 | 82 |
| 経済 | 82 | 17 |
| 犯罪・治安 | 71 | 28 |
| 医療保険政策 | 36 | 63 |

- バイデン投票者とトランプ投票者の間には重要争点の認識に大きな隔たり

- 「争点 → 投票先」よりも、「政党支持 → 争点」 + 「政党支持 → 投票先」

- 経済とコロナ対策の優先順位

| | トランプ | バイデン |
|---------------------------------|------|------|
| 仮に経済状況が悪化しても、現在はコロナウイルスを封じ込めるべき | 18 | 80 |
| 仮にコロナ禍が悪化しても、現在は経済の立て直しをすべき | 76 | 22 |

- 「感情的分極化」
(affective polarization) : 共和党支持者と民主党支持者の間には政策選好を超えた感情的対立・現状認識に関する深刻な分断

予想以上のトランプ善戦

- 世論調査が再びトランプ支持を過小評価？
 - 僅差でのバイデン勝利が予想された複数州（フロリダ、ノースカロライナ）でトランプ勝利、激戦州でも僅差
 - 2016年世論調査と結果のズレ：低学歴白人男性を過小に評価
→ 世論調査方法を見直し、2018年中間選挙では大きな問題なし

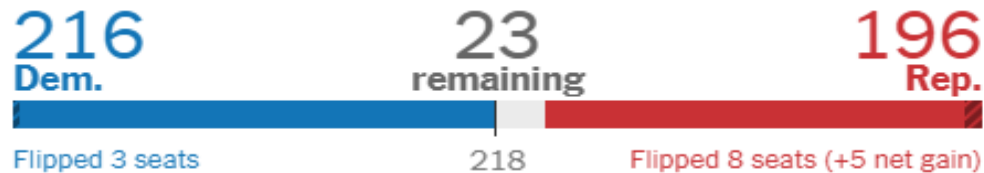
バイデンの得票マージン

| 州 | 事前予測 | 投票結果 |
|----------|------|------|
| ウィスコンシン | 8.3 | 0.6 |
| ミシガン | 8 | 2.6 |
| ペンシルベニア | 4.7 | 0.6 |
| アリゾナ | 2.6 | 0.5 |
| フロリダ | 2.5 | -2.4 |
| ノースカロライナ | 1.7 | -1.4 |
| ジョージア | 1 | 0.2 |
| オハイオ | -0.6 | -7.9 |
| アイオワ | -1.5 | -8.2 |

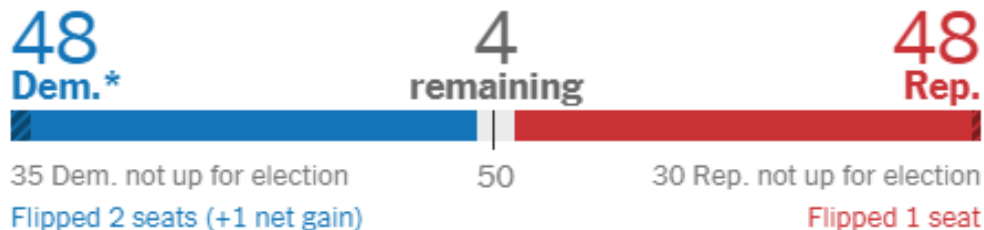
(出所) 事前予測：FiveThirtyEight (<https://fivethirtyeight.com/>)による最終予測 投票結果：New York Times

議会選挙でも民主党苦戦

- **下院**：民主党多数維持が予想されるが議席減も



- **上院**：過半数に届かず共和党支配が継続か



※11月9日現在

出所：New York Times

- 民主党内では「敗因」をめぐる左派と穏健派の相互批判
- **分割政府状況**となるとバイデンの政策公約実現はより困難になり「決められない政治」の状況が続く
- トランプの善戦：共和党内での「トランプイズム」の影響が強く残る可能性

今後の注目点と日程

- トランプは（いつ）**敗北宣言**をするのか？
 - 憲法等には規定されていないが、大統領選挙後の平和的政権移行というアメリカ民主主義の根幹を支える重要な慣習
 - 多くの場合、選挙当日ないし翌日。フロリダ州での票の数え直しが行われた2000年選挙では12月13日にゴアが敗北宣言
 - （可能性は低いが）票の再集計や訴訟によって12月8日までに州が選挙人を確定できない場合、11月3日の結果に関係なく州議会が選挙人を選ぶことに

